

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602
10月の休館日:6月・14日・20日・27日

4日(土) 13:30～(メッセホール)
お楽しみコンサート「**芸術の秋**」
☆出演:木村麻美子(ピアノ)、池田真里子(ソプラノ)、森本ほのか(ソプラノ)、三輪のり子(ハープ)
☆内容:ピアノやハープ、声楽やハンドベルなどで生音のすばらしさを身近に感じてみよう。
【鑑賞無料】

4日(土) 14:00～(グランドホール)
ひこね市民大学講座 **第3講**
「環境と健康」 北野大(工学博士・明治大学教授)
自由 4,000円 【好評発売中】

5日(日) 15:00～
財彦根市文化体育振興事業団設立30周年記念
大阪シンフォニカー交響楽団演奏会
指定 S席 4,000円、A席 3,000円、B席 1,500円
【好評発売中】

15日(水) 18:30～
倉木麻衣 待望の彦根ライブ決定!
Mai Kuraki Live Tour 2008 "touch Me!"
指定 6,000円 【好評発売中・残席わずか】
※完売の場合はご了承ください

27日(月) 18:30～
市民に贈る...吹奏楽の夕べ
ブリヂストン吹奏楽団久留米演奏会
自由 入場無料(ただし入場整理券が必要)
【入場券の配布は終了しました】

11月22日(土) 14:00～/18:00～ **2回公演**
宝塚星組公演
指定 1階席 6,500円、2階席 5,500円
【好評発売中・残席わずか】
※完売の場合はご了承ください

11月27日(水) 19:00～
劇団四季 ミュージカル
「ジーザス・クライスト=スーパースター」(ジャポネスクバージョン)
指定 S席 8,400円、A席 6,300円、B席 5,250円
【好評発売中】

12月18日(水) 18:30～
ロマンティック・ラブコメディ「月の輝く夜に」
☆出演:大地真央、岩崎大、上條恒彦 ほか
指定 S席 6,000円、A席 4,000円
【好評発売中】

12月21日(日) 14:00～
第11回 ひこね市民手づくり演奏会
今回は趣向を変えて、マーラーの偉大な交響曲「復活」と、フォーレの「レクイエム」全曲に挑戦します。
自由 2,000円(当日2,500円) 【好評発売中】

マーク:託児サービスがあります。(要予約)
※公演日の1週間前までにご予約ください。
マーク:公演終了後、彦根駅行き・南彦根駅行きの臨時バスの便があります。(有料)

チケット・入会のお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520
10月の休館日はありません。
10月28日(火)～同30日(木)は、展示替えのため、展示室を一部閉室しています。

開館時間 8:30～17:00 (入館は16:30まで)

10月2日(木)～同28日(火)

直弼発見! 巻の3
「井伊直弼の茶の湯
—一派創立と茶会記—」

江戸時代後期を代表する大名茶人として知られる井伊直弼。著作や茶会記、茶会で用いた道具など、茶の湯と真しに向き合った姿を紹介します。



▶ 竹二重切花生 清水動開作

ギャラリートーク
「井伊直弼の茶の湯—一派創立と茶会記—」

10月4日(土) 14:00～15:00
解説:本館学芸員 小井川理
※事前申し込みは不要です。当日、館内講堂にお集まりください。

観覧料が必要です

幕末の大老、井伊直弼(1815～1860)は、国政を担う政治家として知られる一方、茶の湯や国学、禅、居合などに真しに取り組む、文化人としての面をあわせ持っていました。このコーナーでは、直弼ゆかりのさまざまな作品を集め、その人となりを紹介します。

9月30日(火)～10月27日(月)
釈尊略記 井伊直弼筆
重要文化財

釈迦の伝記など、仏教に関する記述。直弼は、禅の修養を行うなど、仏道に強い関心をみせています。



市民体育センター ☎23-2293 FAX 23-2294
10月の休館日:7日・14日・21日・28日

5日(日) 10:00～12:00
フェスタ
・エアロビクス

場所 市民体育センター
参加費 1人500円
定員 100人(先着順、中学生以上)
申込方法 前日までに市民体育センター窓口、電話ファクスのいずれかで申し込んでください。



19日(日) 9:30～12:00 ※雨天中止(当日8:00に決定)

フェスタ・グラウンドゴルフ

場所 県立彦根総合運動場 多目的広場
参加費 1人500円
定員 100人(先着順、小学生以上)
申込方法 前日までに市民体育センター窓口、電話ファクスのいずれかで申し込んでください。

ときの玉手箱

博物館からのメッセージ

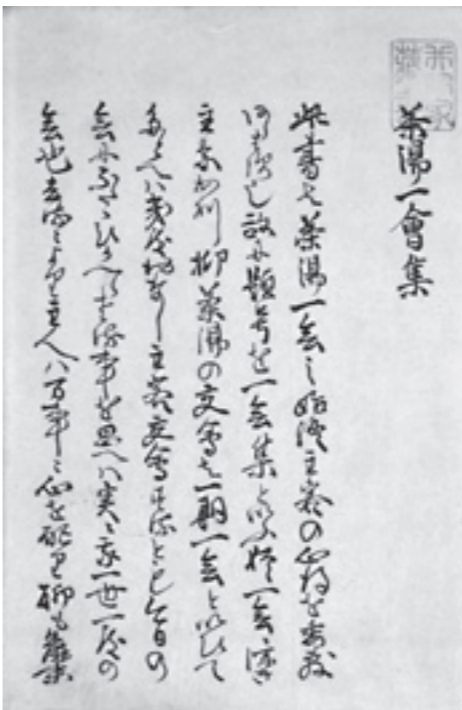


第146回

一期一会のかたち―茶湯一会集―

NHK大河ドラマ「篤姫」に登場した井伊直弼は、開国や安政の大獄に、大老として権勢をふるいながら、茶の湯を極めることを目指した人物として描かれました。直弼が、自身の茶の湯の集大成として著した書物が『茶湯一会集』です。

『茶湯一会集』は、「一期一会」や「独座観念」という言葉に直弼の茶の湯観が語られていることでも有名ですが、実際には読んでみると、前書き部分以外はずべて、茶会を開く亭主と招かれた客がどのように振る舞うべきか、具体的な作法が説か



▶「茶湯一会集」冒頭部分

れています。茶会の日時を約束し事前の打ち合わせを行うところから始まり、当日の服装、茶室や庭の掃除の仕方、道具の運び方、茶会中の流れと作法、後日取り交わす挨拶まで、動きのタイミングや会話の内容などの約束事が事細かに書き綴られています。人数が急に増えたときや遅参する客があつたときの対処法、茶会に際しての贈り物のことなども記されています。どれをとっても具体的に、精密なマニュアル集のようですが、「ここで直弼が伝えたかったものとは何でしょうか。書物の冒頭で、直弼は、

茶の湯の交わりは一期一会と言つて、たとえ幾度同じ亭主と客で茶会を催そうとも、今日の日の出合いが再び戻ることなく、実に一生に一度の出会

である。亭主は万事に心を配り、少しもないがしろにせず深く心入れ真心を尽くし、招かれた客も二度と同じ出合いに逢うことはないといふまに、亭主の趣向が一つとして手ぬかりのないことを感心し、真心を以て交わらなければならぬ。

と述べています。

茶会では、客を迎えるため、亭主はさまざまに心を配り、真心を尽くしたもてなしを用意します。亭主の真心を感じ、もてなしに心えるには、招かれた客にも亭主の心配りに対する深い理解が必要で、直弼が『茶湯一会集』で述べた、細かな作法や約束事は、単なるきまりや形式ではなく、茶会に集う主客が深く心を通わせていくために共有する形、「一期一会」の精神を目に見えるものとして表した、直弼の茶の湯の「かたち」と言えます。

お互いの真心を通わせ、一服の茶を点て、いただくことに集中して初めて、「一生に一度」と言えるようなひとときが生まれるのでしょうか。

一会の茶会、一服の茶を通じて心を通わせる主客のありようを知ると、さらに「一期一会」の意味を深く実感できるように思います。江戸時代の、しかも茶の湯の用語で記された書物であるため、現代の私たちがとって決して読みやすくはありませんが、それを承知の上で読んで、『茶湯一会集』を秋の夜長の読書の一冊としてお薦めしたいと思ひます。

彦根城博物館学芸員
小井川理

「茶湯一会集」は、シリーズ「直弼発見!」巻の三「井伊直弼の茶湯―一派創立と茶会記―」で、10月2日(木)～同28日(火)まで展示しています(期間中無休)。